

令和5年度 学校評価結果公表シート

学校法人廣瀬学園

認定こども園 東よさみ幼稚園

<p><u>保育教育目標</u></p>	<p>かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい 清く ■かがやく瞳 正しく ■ゆたかな心 たくましく ■のびゆく身体</p>												
<p><u>保育教育方針</u></p>	<p>「自立心 自主性の育成（生活習慣の充実と安心安全に努める）」 考えられる子 できないと思ってもあきらめず最後までやりぬく子</p>												
<p><u>保育教育の特徴</u></p>	<p>健康な心身をつくる（体育遊び、乾布摩擦を通して） 人とかかわる力を養う（異年齢保育や、先生との交流を通して） 自然や社会の身近な環境に親しむ（栽培や飼育活動や行事を通して） 豊かな感性、創造力、表現力を養う（教材、音楽、造形活動を通して） 「6つの心」が自然と身につくように育てる（社会・言葉を通して）</p> <table border="0" data-bbox="405 875 1209 1146"> <tr> <td>「おはようございます」という</td> <td>明るい心</td> </tr> <tr> <td>・「はい」という</td> <td>素直な心</td> </tr> <tr> <td>・「すみません」という</td> <td>反省の心</td> </tr> <tr> <td>・「わたしがします」という</td> <td>積極的な心</td> </tr> <tr> <td>・「ありがとうございます」という</td> <td>感謝の心</td> </tr> <tr> <td>・「おかげさまで」という</td> <td>謙虚な心</td> </tr> </table>	「おはようございます」という	明るい心	・「はい」という	素直な心	・「すみません」という	反省の心	・「わたしがします」という	積極的な心	・「ありがとうございます」という	感謝の心	・「おかげさまで」という	謙虚な心
「おはようございます」という	明るい心												
・「はい」という	素直な心												
・「すみません」という	反省の心												
・「わたしがします」という	積極的な心												
・「ありがとうございます」という	感謝の心												
・「おかげさまで」という	謙虚な心												

重点目標

幼保連携型として乳児（0～2歳）の育ち、すなわち生活習慣の充実から、幼児（3～5歳）の教育。自ら考え行動し、表現できる子どもへの育ちの育成に務める。また6つの心の育ちから、自ら考え行動できるようにすること、自主性と自立心を身に付けさせることを重点目標とする。

項目	評価	取組状況
<p>(1) 園の教育目標、教育課程、園長の思いを理解し、それを基に子どもの実態をふまえて保育計画をたてているか。</p>	<p>A</p>	<p>園の教育目標を意識し、保育することを心掛けている。子どものできたという経験を大切に意見や思いを尊重した保育計画や環境設定をしている。リーダー会議など活用し全体で計画を進めていった。</p>
<p>(2) 保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるよう取り組んでいるか。</p>	<p>B</p>	<p>学年でしっかり話し合い、計画を立てながら進めることができた。日々の日誌での反省を含めその日の保育を振り返り改善することなど見極めて次の保育に活かすことができた。</p>
<p>(3) 一人ひとりの子どもをよく理解し、個性や努力は、公平に評価しているか。</p>	<p>A</p>	<p>それぞれ個性があり発育も発達も性格も異なることを理解し、その状況を認めそれぞれのペースで成長していることを感じ喜ぶことができた。それを職員で共有し、クラス全体で受け止めることに努めた。</p>

(4) 子どもの活動がより豊かになるよう、自ら展開をしていけるような場や空間の構成をしているか。	A	子どもたちが興味を持つこと、自分たちがどうしたいかなどを大切にできるようタイミングを見ながら関わったり、すぐ手を差し伸べないように意識をした。何に興味関心があるか感じながら環境構成をした。
(5) 子どものことについて各クラスで話し合い、共通理解をし、各クラスでの成果と課題を報告しているか。	A	こどものことを職員同士で報告し合い、保育を進めることができた。些細な変化も職員で共有するようにしている。
(6) 異年齢の児童が自然に交流できるような環境構成ができていますか。またそのためにどのような取り組みを行っているか。 (異年齢交流は児童の学年による)	B	異年齢交流保育ファミリーの日などで交流の取り組みができた。それ以外にも園庭などで自由あそびの際にはお互いが思いやる場面も見られた。預かり保育では合同保育になるため一緒に遊ぶことも見られたが、意図した環境構成ではなかった。
(7) 研修・研究への取り組みが充分に行われているか。	B	研修にあまり参加できなかった。 造形研修では知らない知識を身に付けることができた。キャリアアップ研修に参加した。姉妹園の行事に参加したり、公開保育を見ることができ勉強になった。
(8) 安全管理の為に体制は十分に整っているか。また具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	職員の配置を各遊び場に分散し、遊ぶ前には約束事を確認し、理解できるよう言葉掛けしている。部屋を清潔に保ち、広く使えるよう工夫した。道具の使い方や物の扱い方をなど理由を伝え一緒に考えたりしながら子ども達自身でも気を付けられるようにしている。
(9) 緊急時の救護法を身に付けているか。	A	毎年研修を受け、AEDの使用方法や体調不良時の対応方法など情報も集め対応できるように努めている。
(10) 地域の人々や自然の関わりを積極的に持つことができていますか。	B	園の保育者として笑顔や挨拶を大切にしたい。小学校の交流会でも関係者や地域の方々と関わることもできた。

感染症対策への評価

評価項目	自己評価	評価結果についての教職員等の主な意見	次年度の解決策
保育室や手洗い場を清潔に保ち、日々の手指の消毒や食事の時消毒を行う	○		
手洗いの大切さや方法を教え、子どもたちが自ら取り組むようになる。(年少、年中、年長)	○		
行事の際の感染防止対策	○		
多くの人々がさわる部分をよく消毒する	○		
不特定多数の人が集まる行事は見合わせ	○		

せ、一部の役員や園児のみの開催とする			
トイレの掃除を1日1回行うようにし、チェックシートに記入する	○		
職員一人ひとりが自分の健康管理を十分に行うようにする	△	職員の家族がコロナやインフルエンザに感染することもあった	

今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	<p>人と関わる力を育てる『協同して遊ぶ経験』など教育保育課程の工夫を実践できるよう、これまで以上により具体的な保育カリキュラムの構築に取り組んでいきたい。</p> <p>引き続き、考える力を養うなど園児の主体性を育ていけるような教育保育実践を継続的に行い次の学年へ円滑な連携ができるよう情報の引き継ぎにも重点をおきたい。</p> <p>特別な支援を必要とする園児に対する個別の指導計画においては引き続き一人ひとりの実態把握をしっかり行い、計画を立てると共に評価、次年度への引継ぎに重点を置く。</p>
2	研修・研究への取組	<p>園外の研修については、教員が主体的に、自分の苦手とする分野や興味のある分野について多岐にわたる内容を受講したあと、職員会議でレポートなどを作成回覧し、教職員間で学びを共有している。教職員間での学びの共有が乏しく園内研修において発表や意見交換の機会を設けるなどの工夫が必要であり、今後も続ける。このような発表の機会は、発表を聞いている教職員の学びを促すだけでなく、発表者自身の学びを向上させることが期待できるので、日常の業務において時間的制約はあるが進んで取り組む。スキルアップ研修も含め研修には重きを置いていく。</p>
3	安全管理体制の整備	<p>避難訓練、交通安全講習、具体的な防犯訓練の実施、救命救急講習の受講は引き続き実践していくが、さらに、大型地震や津波などにも備えた緊急時対策について地域と連携し、より緻密な計画を立てたい。</p> <p>また各マニュアルの整備を進めたい。</p>
4	保護者に対する情報発信	<p>例年通り保育目標や内容、子どもの活動については、園便りやクラス便りなどの手紙、ICTそしてインターネットのホームページなどを活用し保護者に対して情報を発信している。保護者からもっと幼稚園の保育について伝えてほしいという要望もあり、また保護者同士の交流を希望される声も聞かれたので、検討していきたい。</p>

学校関係者評価

<p>令和5年度は行事などコロナ前と同様になり、令和6年度から宿泊保育も外部施設で行うこととなったようである。保護者の満足度にも合わせられるようになっているのではないかと感じた。1号認定の子どもの園児数も増加し、少子化のさ中、維持できるよう努力している。園児数に見合うよう引き続き職員数の確保に努めてほしい。</p>
--